

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0 使用評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)二十四軒2条2丁目 B棟 新築工事	階数	10階
建設地	西区二十四軒2条2丁目5番1の内、2の内	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、準工業地域	平均居住人員	271 人
建物用途	集合住宅	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
竣工年	2023年2月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	3,275 m ²	評価の実施日	2021年10月15日
建築面積	1,084 m ²	作成者	花里
延床面積	8,099 m ²	確認日	2021年10月25日
		確認者	石川



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)								
<p>BEE = 1.7 ★★★★★ A</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>① 参照値</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>② 建築物の取組み</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>③ 上記+②以外のオンサイト手法</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>④ 上記+オフサイト手法</td> <td>72%</td> </tr> </table> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	① 参照値	100%	② 建築物の取組み	72%	③ 上記+②以外のオンサイト手法	72%	④ 上記+オフサイト手法	72%	
① 参照値	100%									
② 建築物の取組み	72%									
③ 上記+②以外のオンサイト手法	72%									
④ 上記+オフサイト手法	72%									

2-4 一次エネルギー消費量の評価
建物全体の[BEI][BEIm]= 0.85

2-5 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 3.1</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 3.1</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.3</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 3.1</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.7</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 4.3</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 3.2</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.5</p>

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> 「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」を新基準(H28基準)で取得し、外皮性能の向上・省エネ効果の高い設備機器の選定などにより一次エネルギーの抑制をし省エネルギー対策を行っている。 	<p>A 省エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本住宅性能表示基準の断熱等性能等級4を満たす程、省エネルギー対策を充実させている。 効率の優れた潜熱回収型給湯設備の使用など、省エネルギー効果が期待できる設備を採用している。
<p>B 省資源等</p> <ul style="list-style-type: none"> 乾式間仕切、断熱材のウレタン吹付等、分別を比較的容易にしている。 ODP=0、GWP<10の断熱材を使用している。 地球温暖化対策の取組みによりLCCO₂排出率が72%となっている。 	<p>C 緑化</p> <ul style="list-style-type: none"> 基調となる樹種は、耐陰性・耐寒性のある常緑針葉樹を用い、冬の緑量確保に配慮している。 歩道沿いの植栽に連続的に庭園灯を配置し、通りを暖かく照らしている。
	<p>D 雪処理</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地内車路及び通路をロードヒーティングとし、冬季間の除排雪作業の軽減に努めています。

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし	BELS認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用		LEED認証	なし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)
 (仮称)二十四軒2条2丁目B棟 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)
 欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.1
Q1 室内環境					0.40		-	3.1
1 音環境		2.0	0.15	2.0	1.00			2.0
1.1 室内騒音レベル		1.0	0.50	1.0	0.50			
1.2 遮音		3.0	0.50	3.0	0.50			
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能			-	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	0.20			
1.3 吸音			-		-			
2 温熱環境		1.6	0.35	3.7	1.00			3.2
2.1 室温制御		1.0	0.50	4.0	0.71			
1 室温		1.0	0.63	-	-			
2 外皮性能	省エネ	1.0	0.38	4.0	1.00			
3 ゾーン別制御性			-		-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	0.29			
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-			
3 光・視環境		3.0	0.25	3.5	1.00			3.4
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.6	0.35			
1 昼光率		5.0	0.60	5.0	0.50			
2 方位別開口			-	5.0	0.30			
3 昼光利用設備	省エネ	3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.35			
1 昼光制御	省エネ	2.0	1.00	3.0	1.00			
2 映り込み対策			-		-			
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.29			
4 空気質環境		3.0	0.25	3.2	1.00			3.1
4.1 発生源対策		3.0	0.60	3.0	0.63			
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.40	3.6	0.38			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能			-	5.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理			-		-			
1 CO ₂ の監視			-		-			
2 喫煙の制御			-		-			

Q2 サービス性能			0.30	-	-	3.3	
1 機能性			3.1	0.40	4.0	1.00	3.8
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性			-		-	
2	高度情報通信設備対応	各住戸に1 Gbit対応の光ケーブル回線を整備している。		-	5.0	1.00	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性			3.0	0.30	2.5	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)	天井高を高くし、開放感を持たせている。		-	4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画		3.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理			3.5	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保	清掃や建物管理に配慮した設計としている。	4.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性			2.9	0.30		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.3	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数	日本住宅性能評定基準の劣化対策等級3を満たしている。	5.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	期待耐用年数が長い内装材を選定している。	4.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	期待耐用年数が長い管材を選定している。	4.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
2.4 信頼性			2.4	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり				-	3.2	0.50	
1	階高のゆとり	階高2910mm以上。		-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			緑化	2.0	0.30	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			緑化	永くまちなみと調和する外観デザインとしている。	4.0	0.40	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	雪処理	3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			省エネ	日本住宅性能評定基準の断熱等性能等級4を満たしている。	4.0	0.20	4.0
2 自然エネルギー利用			省エネ		3.0	0.10	3.0
3 設備システムの高効率化			省エネ	[BEI][BEIm] = 0.85	5.0	0.50	5.0
4 効率的運用				3.5	0.20	-	3.5
集合住宅以外の評価							
4.1	モニタリング	省エネ					
4.2	運用管理体制	省エネ					
集合住宅の評価				3.5	1.00	-	
4.1	モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	
4.2	運用管理体制	省エネ	設備や仕様に関し、適切な説明がなされている。	4.0	0.50	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				3.4	0.20	-	3.4
1.1 節水				節水型器具を使用している。	4.0	0.40	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.6	0.60	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			省資源	2.0	0.11	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			省資源	3.0	0.22	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			省資源	3.0	0.22	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			省資源	1.0	0.22	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			省資源	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			省資源	乾式間仕切、断熱材のウレタン吹付等、分別が比較的容易である。	4.0	0.22	-

3 汚染物質含有材料の使用回避			4.7	0.20	-	-	4.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない接着剤を選定している。	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			5.0	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源	ODP=0、GWP(100年値)=1 の断熱材を使用している。	5.0	1.00	-	-	
3 冷媒	省資源		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	省資源	LCCO2排出率72%である。	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 熱化 蓄処理		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		十分な駐車スペースを確保している。	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 蓄処理		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		「光害対策ガイドライン」のチェックリスト項目の過半を満たしている。	5.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		バルコニーの設置によりグレアの抑制を行っている。	4.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.7	BEEランク	A
建物名称	(仮称)二十四軒2条2丁目 B棟 新築工事				
建物用途	集合住宅				
延床面積	8,099.0 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	
	省資源等	★★★★☆	
	緑化	★★★★☆	
	雪処理	★★★★☆	
		<p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>	

3. 重点項目のCASBEEスコア					
A 省エネルギー (最高点 23.5 最低点 7.4)		合計 18.5点 /23.5点			
Q1 温熱環境	スコア	0.3 /1.4	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	3.2 /4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.0 /2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 /2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	10.0 /10.0
	LR1 効率的運用	スコア	2.8 /4.0		
B 省資源等 (最高点 23.9 最低点 7.5)		合計 15.7点 /23.9点			
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	4.9 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	2.1 /2.1
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	4.1 /5.0
	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.6 /4.4		
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)		合計 9.5点 /15.3点			
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	1.8 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	4.8 /6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3			
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		合計 2.0点 /3.0点			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■重点項目の**最高**点は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数
 ■重点項目の**最低**点は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数